

鎌倉市中央図書館

近代史資料室だより

第 10 号

鎌倉市中央図書館
近代史資料担当
鎌倉市御成町 20-35
電話 0467 (25) 2611

報告 令和 6 年度郷土資料展

鎌倉アカデミア創立記念展示

【会期】令和 6 年（2024 年）

5 月 16 日（木）～ 26 日（日）

【会場】鎌倉市中央図書館

1 階・3 階ギャラリ

【展示概要】

鎌倉アカデミア（鎌倉大学校）は、1946 年 5 月、材木座光明寺を仮校舎に創立された「大学」でした。戦後の鎌倉の文化を彩る営みで、文学科、演劇科、産業科、さらに大船校舎に移ってからは、映画科が新設されましたが、4 年半で幕を閉じました。鎌倉アカデミア（鎌倉大学校）から輩出された多彩な人材は、昭和の文化を担い、また多くの人たちに語り継がれ、今に至っています。

鎌倉市中央図書館で、1992 年 2 月に郷土資料展「青春・鎌倉アカデミア」「鎌倉大学」

の人々」を開催以来、「創立 60 周年記念祭」（2006 年）に続き「鎌倉アカデミアを伝える会」（2007 年～2015 年）を、毎年材木座光明寺様をお借りして開き、2016 年には、「創立 70 周年記念祭」を行ない、卒業生やゆかりの方々の貴重なお話しをうかがい記録することができました。また、多くのゆかりの品々が図書館に寄贈されています。

毎年 5 月には、創立の月を記念して、中央図書館内にて展示をして「鎌倉アカデミア」を伝えています。

そして、来年 2026 年 5 月は、鎌倉アカデミア創立 80 周年です。10 年前には、お元気で「鎌倉アカデミアを伝える会」に参加されていた卒業生も鬼籍に入られる方も多く、「伝える会」を担っていたメンバーも数少なくなりました。しかし、世界が大きく動く現在、もう一度、戦後のあの場は何であったか、研究され、関心を持たれる若い世代の方々もいらつしやいます。できれば成果を披露し交流する場を作りたいと考えています。



1 階展示「教授と講師達 写真リスト」・扁額（プラトンの箴言）など 16 点

目次

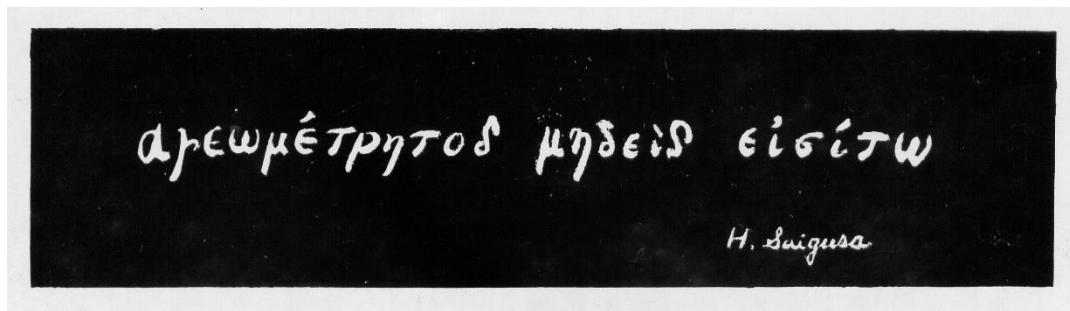
- ◆ 報告 令和 6 年度郷土資料展
「鎌倉アカデミア創立記念展示」
- ◆ 古写真紹介 葬送の列（大正時代）
- ◆ 寄贈資料一覧（2023～2025.1）
- ◆ 古文書紹介 長谷三橋家文書より勝見氏書簡
- ◆ 写真展開催（大船フラワーセンターにて）
- ◆ 大船軒資料調査 中間発表
- ◆ インタビュー（むかし語り）⑩
- 「鎌倉流御詠歌を守って」 荒井久二子さん

12 10 9 8 7 7 1



扁額(下の写真)

三枝校長は、白木の板にプラトンの言葉「幾何学をまなばざる者はこの門に入るべからず」と彫り、本堂と開山堂の渡り廊下の鴨居に掛けた。ギリシャ語で彫られたこの箴言は、長い戦争をくぐり抜けた若者と知識人たちが、今こそ科学的に考え振る舞おうと集い来った意気込みそのもののようである。しかし、「科学的というだけでは現実を通れぬ、奥底の様子がわからぬ人間世界がある。この点に筆規(ぶんまわし)の心棒を立てぬと、若い人たちよ！現実の社会に出ては躓くぞということも言ってあげたい」(「廃校始末記」)とあった。廃校後放置されていたこの額は、アカデミアを人生の糧とし熱愛した一卒業生の所望に応え、三枝氏自ら H. Saigusa のサインを彫り、手渡された。 廣澤厚氏提供



3 階展示 教授及び卒業生の著作物 卒業生の活動履歴パネル 交流葉書類



(※は 6 p～ 解説あり)		展示品	備考
1	教授と講師たち (24 名 解説付 記念集合写真)		展示ボード
2	扁額—プラトンの箴言 (校長三枝博音彫刻 檜の板)		廣澤栄氏寄贈
3	『鎌倉アカデミア』落穂集 創立六十年記念文集		実行委員会編
4	青春 鎌倉アカデミア—「鎌倉大学」の人々		鎌倉市中央図書館
5	『三枝博音 大学と思想』三枝博音先生没後 50 年記念誌		横浜市立大学発行
6	鎌倉大学バッジ・校章・印章		村山知義デザイン
7	教室の図 (光明寺開山堂ほか)		廣澤栄画
8	受講ノート (斎藤英司・演劇科)		
9	受講ノート (廣澤栄・演劇科)		
10	鎌倉大学入学案内 昭和 21 年 3 月		
11	鎌倉アカデミア学生歌 苦しい学校運営にもかかわらず、未来への希望を託して 情感あふれる「鎌倉アカデミア学生歌」が生まれた。		昭和 24 年 3 月の第一回卒業式に初めて歌われた。歌人吉野秀雄作詞、矢代秋雄作曲
12	「ON BORROWED TIME」演劇科公演リーフレット・チラシ		村山知義演出
13	同人雑誌「尖塔」 創刊号昭和 21 年 12 月 第 2 号昭和 22 年 5 月		川西五郎・平林勝夫・稲田三吉・山内正信・後藤映夫・芳賀義宏・若林泰雄・関昇・山口瞳・宮野澄
14	「龍鱗」鎌倉大学文芸部機関誌 創刊号昭和 21 年 7 月 10 日		校内同人誌 巻頭言は校長飯塚友一郎氏
15	「霧笛」		校内同人誌 同人に真杉盛雄、相馬繁美等
16	鎌倉大学創立記念祭 プログラム デザイン：演劇科廣澤栄・鈴木治夫		ポスターは「国電中吊り広告」にも出した
新旧関連書籍&イベント情報 (ドキュメンタリー映画など)			
17※	『ポストファシズムの日本—戦後鎌倉の政治文化』2023 年 9 月 (人文書院) ローラ・ハイン著 中野耕太郎、奥田博子訳		○貸出可
18※	私家版 『鎌倉アカデミア「人名・事項」小辞典』 —戦後大学教育史の一原点と評された「鎌倉大学」の知的世界に迫る— 編著者 田村実 2023 年		
19※	『廣澤栄映画・テレビ・演劇関係資料目録』 2019 年 小田原市立図書館		
20※	「天佑丸」台本		
21※	『父・吉田謙吉と昭和モダン』塩澤珠江 2012 年 草思社		
22※	AKIRA KATAOKA『片岡昌展』超次元アートと『ひょうたん島』 片岡昌アーカイブ・プロジェクト編 2010 年 7 月		
23※	『鎌倉アカデミア断章—野散の大学』 高瀬善夫 1980 年毎日新聞社		○貸出可
24	ドキュメンタリー映画 鎌倉アカデミア創立 70 周年記念作品 “鎌倉アカデミア 青の時代” ある「自由大学」の記録 大嶋拓 監督作品 2017 年		
25	リトルボートストーリー 鎌倉アクターズワークショップ 2017 リーフレット		
26	映画“浜の記憶” 加藤茂雄 俳優生活 70 周年記念作品 俳優：加藤茂雄 宮崎勇希 渡辺梓 監督・脚本：大嶋拓 2019 年		



No.1



No.13

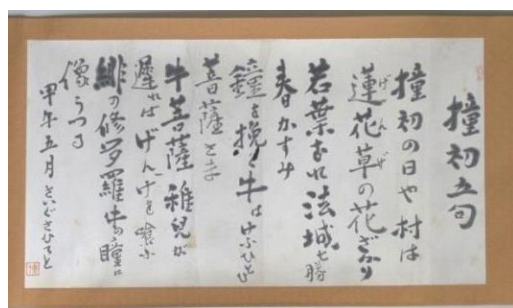


No.15



No.16

三枝博音コーナー		
27※	書幅 春を吟じて “撞初五句”	三枝利文氏寄贈
28	書幅 F・Bacon の言葉 1963 年 10 月 15 日	三枝利文氏寄贈
29	『三枝博音著作集』 第 5 巻、第 7 巻、第 11 巻、第 12 巻	
30	「鎌倉大学廃校始末記―風評、大学をつぶす」 『中央公論』昭和 26 年 2 月発表	
31	『産業革命』	
32	『河原の石』清水弘文堂	
33	『哲学するための序説』国土社刊	
34	『技術の哲学』岩波全書	



※27 三枝博音書書幅
春を吟じて
撞初五句
撞初の日や村は
蓮花草の花ざかり
若葉むれ法城七勝
春かすみ
鐘を挽く牛はけふひ
とひ 菩薩さま
牛菩薩稚児が
遅ればげんげを喰ふ
緋の修多羅牛の瞳に
像うつる
甲午五月
さいぐさひろと

教授・講師の著作コーナー		○印は鎌倉市図書館で貸出できます	
35	青江舜二郎一幕劇集		青江舜二郎
36	歌舞伎入門	○	飯塚友一郎
37	劇評集 第一輯		遠藤慎吾
38	古代人と夢	○	西郷信綱
39	近代俳優術		千田是也
40	完本高見順日記 昭和 21 年篇	○	高見順
41	ルイザ・メイ・オルコットの生涯	○	田中清子
42	決定版 シナリオ構造論		野田高梧
43	原敬百歳	○	服部之總
44	歴史の暮方	○	林 達夫
45	久板栄二郎の思い出		久板好子
46	春日抄 三上次男随筆集	○	三上次男
47	陶磁の道 ―東西文明の接点をたずねて―	○	三上次男
48	農村演劇脚本集 3		村山知義
49	村田武雄作品集		村田武雄
50	英國に就て	○	吉田健一
51	たのしい舞台美術		吉田謙吉
52	寒蟬集	○	吉野秀雄
53	アメリカの近代作家		田代三千穂
54	明治思想史		鳥井博郎

卒業生の著作コーナー		○印は鎌倉市図書館で貸出できます	
55	回想の三枝博音 人間と技術と教育 こぶし書房		飯田賢一
56	日本人と鉄 有斐閣	○	飯田賢一
57	ドレミファ交遊録	○	いずみたく
58	黄菅原		伊藤のり子
59	見えない主役 声優のすべて		勝田 久
60	走る雲		木口和夫
61	碧濤集		木村 聡
62	市民連帯論としての第三世界	○	久保田順
63	野毛坂の女 (ひと)		栗原治人
64	小島鳥水 山の風流使者伝		近藤信行
65	炎の記録 一九四五年・空襲・狂気の果て		近藤信行
66	やっそこ侍		小松重男
67	古事記の語り口 起源・命名・神話		阪下圭八
68	夜明けのコザ (小左エ門)		城井友治
69	孤愁 鈴木清順		鈴木清順
70	盗作 いさよひの日記	○	相馬繁美
71	演劇と文学の間		津上 忠
72	影絵劇への招待	○	とう・たいりう
73	日本映画の時代	○	廣澤 榮
74	もし犬が話せたら人間に何を伝えるか	○	沼田陽一
75	文化の仕掛け人 青土社		沼田陽一他
76	マエタケのテレビ半生記	○	前田武彦
77	宮川晟 遺句集 遠花火	○	宮川 晟
78	西武セゾングループ革命 女たちの挑戦		宮野 澄
79	ゆずり葉 安田昇自叙	○	安田 昇
80	江分利満氏の優雅なサヨナラ 男性自身シリーズ最終巻	○	山口 瞳
81	吉田松籟集		吉田松籟
82	句文集 かまくら		吉田松籟
83	新作村芝居台本集		若林一郎



学生紹介パネルより：いずみたく



鎌倉アカデミアを伝える会が開かれた光明寺書院と庭園の池



教授紹介パネルより：服部之聡

展示品解説(抜粋)

※17

『ポストファシズムの日本』

戦後鎌倉の政治文化』

2023年9月(人文書院)

ローラ・ハイン 中野耕太郎、奥田博子訳

序章 ポスト・ファシズムの政治文化

第1章 鎌倉という場所

第2章 鎌倉アカデミアと人文教育

第3章 物語を紡ぐ博物館―

神奈川県立近代美術館

第4章 都市行政―

社会科学と民主主義

著者ローラハイン氏は、ジョン・ダワー(著作に『敗北を抱きしめて』)の門下生として、歴史研究を始め、日本の戦後史研究を専門とする。本書では鎌倉の戦後政治文化に着目し、なかでも鎌倉に創立されながら、短命に終わった戦後の高等教育機関「鎌倉アカデミア(鎌倉大学校)」について、独自の視点で詳述している。ファシズム下を生きた知識人が、学びの場を集まってきた若者たちとともに苦闘した4年半を、ファシズムへの回帰を防ごうとした知識人たちの「悔恨共同体」の営みとしてとらえている。

※18

私家版『鎌倉アカデミア「人名・事項」小辞典』

―戦後大学教育史の一点と評された「鎌倉大学」の知的世界に迫る―

編著者 田村実

2016年6月3日(初版) :

2023年10月1日(11訂版発行)

©Tanura Minoru 2023, Printed in Japan

田村氏は、光明寺でおこなわれていた「鎌倉アカデミアを伝える会」に、毎回参加し、この小辞典の作成に挑んだ。足かけ8年の苦勞が実り、上梓された本「人名・事項」小辞典は、随筆風の自分史も含めて5862ページの冊子となった。氏は、銀行勤務を終え、世田谷市民大学の「和田ゼミ」で学び、その充実した体験から、そこで「鎌倉アカデミア」を疑似体験したと述べておられる。

※19 ※20

『廣澤榮映画・テレビ・演劇関係資料目録』

2019年 小田原市立図書館

2019年2月、小田原市立図書館の方々と共に、廣澤家を訪問し、ご遺族から、脚本家・映画助監督廣澤榮氏(ひろさわ せい)1924~1996)所蔵資料の寄贈を受けた。廣澤氏は小田原市出身。この目録には映画脚本など422点の記録が納められている。

鎌倉市図書館近代史資料室では、鎌倉アカデミ

ア関係資料(原稿下書きなど)160点の寄贈を受けた。その一つに、「天祐丸」の台本がある。これは「鎌倉創立一周年記念祭」に演劇科が早稲田大学大隈講堂で上演する予定で稽古をしていたが、中止になったとある。

「天祐丸」台本(ヘルマン・ハイエルマンス作 久保栄訳) 鎌大演劇科(1947.8.9)

演出・廣澤榮 滝本總一 演出助手 津上忠

※21

『父・吉田謙吉と昭和モダン』

塩澤珠江 2012年 草思社

吉田謙吉(1897~1982)は舞台美術家。鎌倉アカデミアで舞台美術を指導。1939年、従軍舞台装置家として中国へ。内蒙古張家口より帰国し、一時鎌倉市内七里ヶ浜に寄寓し、さらに砂浜の江ノ電廃車に住む。引揚者寮(由比ガ浜)から光明寺鎌倉大学へ教えるに通った。

※22

『片岡昌展』超次元アートと『ひょうたん島』

片岡昌アーカイブ・プロジェクト編2010年

7月 AKIRA KATAOKA

片岡昌(かたおか あきら)は、鎌倉アカデミア卒業生が創立した「人形劇団ひとみ座」で劇人形作家として、舞台のための人形・装置など多数製作。1932年鎌倉市生まれ。

※23

『鎌倉アカデミア断章―野散の大学』

高瀬善夫 1980年毎日新聞社

法政大学「ウニヴェルシタス」1972年冬号に書く。さらに『月刊教育の森』に連載される(1979年新年号・12月号)。執筆にあたって「鎌倉アカデミアの会」事務局から資料提供など協力を得る。当時、「鎌倉アカデミアの会」は、『わが大学にある日々は―鎌倉アカデミア史』を編纂中であったが、未完成であった。

※27

書幅 春を吟じて “撞初五句”

春を吟じて―昭和29年5月

(「三枝博音のおもかげ」 横浜市立大学学術研究会編より)

『父、三枝博音が生れました寺、法城山浄専坊は、住職でした父の兄が渡米し不在になりましたので、長男が新しく住職になりました。門徒の方々は新住職の就任を慶ばれ、寺の鐘楼の釣鐘が戦時の供出でなくなっていたのが、新しい鐘も運びこまれました。(甲午、1954年5月) 父はこの祝いに行き、その時の様子を詠んだものです。 法城七勝は、浄専坊から見える七個所の景勝のことです。三枝利文記』(利文氏は三枝博音氏(長男)第4回鎌倉アカデミアを伝える会(2010年5月22日)へ寄せられた。

《古写真》

葬送の列 写真寄贈 宮内清氏(横浜市)

場所…鎌倉市山ノ内 現県道横浜鎌倉線沿い
写真右端の建物は、よく見ると玄関の電燈に「」の字が見えるので、山ノ内郵便局(現小坂郵便局)。盛大な葬列の先頭には「小坂消防組」職方一同、花輪、白い手拭を被ったお手伝いの女性たち、そして白ムクの喪服の親族、奥の棺の横には当時の葬儀の衣装、着流しと菅笠姿の男たちが続く。写真を提供された宮内氏の母方の実家「伊勢屋」(西井氏)のご葬儀である。撮影は、近くの「皆吉写真館」。大正末



(タテ 22 cm ヨコ 27 cm)

《寄贈資料》

(2022～2024)

・旧三河屋呉服店(材木座 岩久保商店) 資料

写真アルバム、そろばん、帳面類(茶箱入り)

・旧西野写真館(雪ノ下) 写真ネガ(段葛)

・豊島操子氏(笛田) 絵葉書・写真

・永野勝夫氏(小町) 写真アルバム他

・栗原氏(材木座) 写真(ヘレンケラー来鎌記念)

1963年聖火リレー参加記念バッチ

・栗林美奈子氏(長谷) (戦時中資料 入営祝等)

・大坪咲子氏(東京都) 鎌倉アカデミア関係資料

・白仁浩文氏(材木座) 白仁三郎(坂元雪鳥)より

白仁泰宛

絵葉書

鎌倉絵葉書

春のけしき
大仏様と桜

海浜ホテル

・横山洋子氏(小袋谷) 戦時中の書簡(出撃前)

・小池新太郎氏(台) 旧富士飛行機工場敷地図等

・村田昌彦氏(鎌倉カメラクラブ) 撮影写真多数

・和田優氏(手広)

神奈川県鎌倉郡地番反別入図(昭和四年) 深沢村

相模国鎌倉郡手廣村縮図(明治十五年) 地券他

・藤森真紀子氏(逗子市) 『現代日本の陶芸家』

125人 黒田草臣『直木美佐図録』

・下利江氏(浄明寺) 食券綴り(昭和25年)

古文書

古文書紹介(収蔵資料より)

長谷三橋家文書

「郷土史料を読む会」(前郷土史料研究会1983年発足)では、三橋

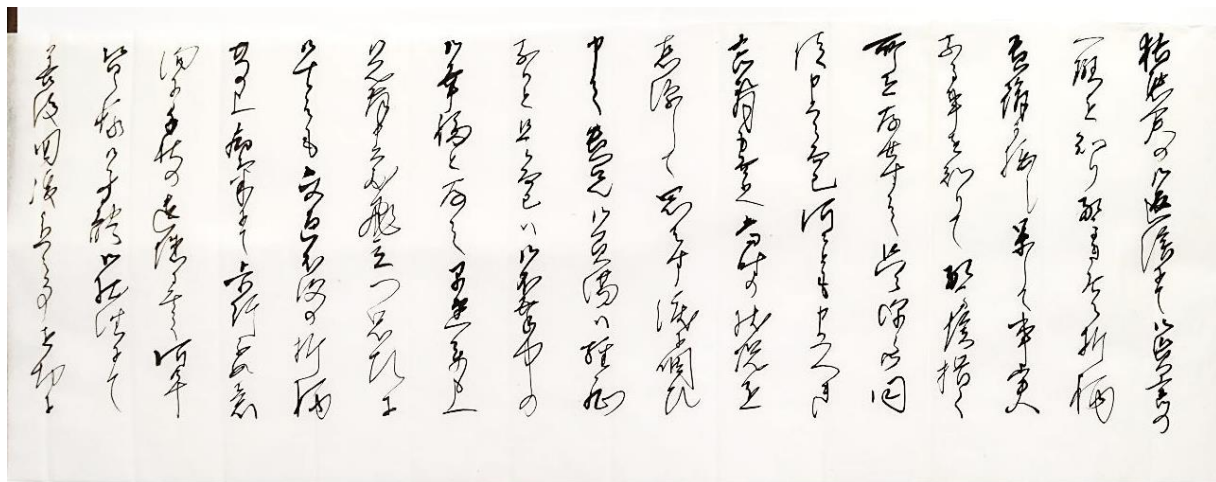
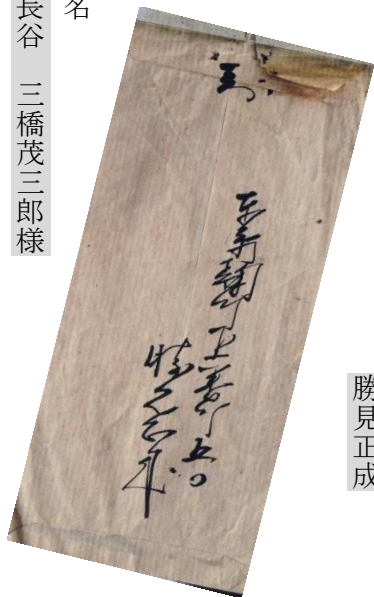
家(三橋文彦氏)より借用した資料を読んでいます。現在は大正期以降大量に残っている書簡類(はがき・封書等)を整理しています。三橋家は、江戸時代文化年間から宿屋・料亭を営んでおり、当時の文人たちの旅日記にも記録が残っています。明治期には政財界の著名人が宿泊し、旅館の規模も海まで続く広大な敷地になっていたようです。しかし大正12年、関東大震災で長谷地区は火災に見まわれ、資料が焼失したため残された資料は大正12年以降のものが中心です。日常のあいさつやお見舞いの文章が多く、読みにくい字もありますが、一点、御紹介いたします。

東京麹町下六番町五〇

勝見正成

宛名

長谷 三橋茂三郎様



(以下省略)

資料の中には、医師勝見正成(かつみまさなり)氏から三橋家への見舞の書状などが数多く見られます。この書状の日付は大正十二年九月廿一日。鎌倉三橋家の大地震被害を知り、驚き、非常に心配している様子がわかります。

猪熊君の御返信にて御災害の一斑を知り驚き居候折柄貴翰に接し果して事実なる事を知りて驚愕措く処を存せず候て只々深く御同情申上候而已 何二とも申上へき宸翰も無之 當時の状況を想像して思はず涙に咽ひ申て貴兄御負傷ハ軽症なりと是而已ハ御不幸中の御幸福と存し早速参上御見舞申上度飛立つ思ひに御座候二も交通不便の折柄 其上病氣にて歩行不如意 洵に千秋の□□り無之何卒皆々様御身體御壮健にて善後回復有之事を切に祈り申し候 (以下省略)

その後、勝見氏は、10月14日、15日にも続けて書状とともに慰問品を届けています。綿入衣類、下着、帯、銅鍋、硯箱などです。

勝見医師は、鎌倉医師会史にその功績が刻まれています。安政6年(1859年)加賀藩士の家に生まれ、医学は、金沢医学館医学所医学校で学び、鎌倉へは明治20年(1887年)に「海浜院」医師として勤務。鎌倉市医師会初代会長として大正8年まで歴任。大正4年創立の



「郷土史料を読む会」活動のひとコマ

「鎌倉同人会」発起人となり、陸奥広吉氏とともに活躍。勝見氏は居を東京に移した後も、三橋家ほか鎌倉の知人との関係を保っていたようです。氏からの書状がたくさん残っています。昭和5年（1930年）死去。お墓は長谷寺にあります。

参照・鎌倉医師会誌「神庫」第52号 第55号（正山堯）

三橋家の資料は、ボランティアの「郷土史料を読む会」で整理中ですが、まだまだ時間がかかりそうです。ご興味がありましたら、資料の解読整理にご参加ください。

☆長年放置していた襖紙の下張り（玉縄歴史の会会員より寄贈）に使われていた文書類を剥がしている。内容解明は今後の課題。

写真展開催

―日比谷花壇大船フラワーセンターにて

令和6年度（6月～3月）

図書館発行写真記録集『古都鎌倉へのまなざし』出版（2023年3月）に因んで、大船フラワーセンターの御厚意により、2024年6月から2025年3月まで1年間にわたって写真パネル展示を行いました。

- | | | |
|-----|--------|---------|
| 第1回 | 玉縄編 | 6月～7月 |
| 第2回 | 大船編 | 10月～11月 |
| 第3回 | 深沢・腰越編 | 12月～1月 |
| 第4回 | 鎌倉編 | 2月～3月 |

玉縄編

鎌倉編



大船編



春のフラワーセンター



フラワーセンター写真展アンケート回答より

とても懐かしく拝見しました・いい思い出めぐりができて嬉しい・昔の写真面白かったです。貴重な資料ですね・鎌倉や横浜の街並みも並べてみては・身近な場所の歴史や過去の姿を知ると一層身近に感じられました・子どもの遊びがよくとれています。元気に子供の世界が広がっています。よい風景だと思えます・展示場所で本が買えると良かったです。写真はすぐ見る機会のないものを拝見できてよかったです・心地よい時を過ごすことができました・S48に転入したが、近隣地区の変遷に思いを新たにしました 等など。ありがとうございました。



秋のフラワーセンター

大船軒資料調査中間発表

鎌倉 別荘地時代研究会 2024.10.19

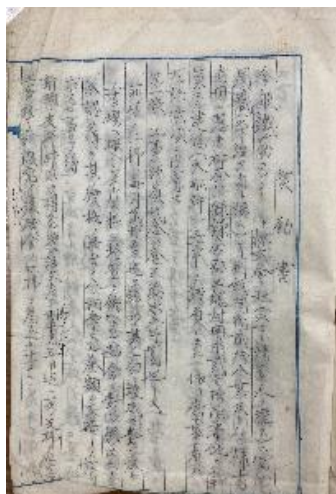
建築関係資料

①資料の概要

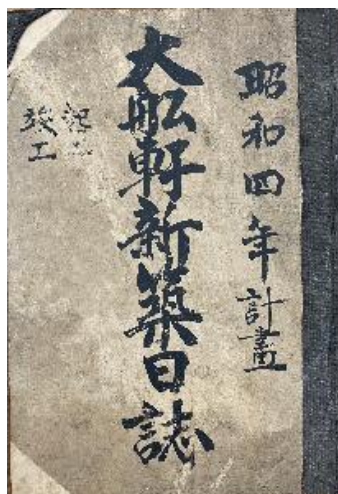
- ・青焼き図面 ロール大・小
- ・見積書、仕様書、工事日誌 等

②資料の特徴

- ・見積書の提出依頼、契約書、仕様書が資料として、判明する。
- ・資料状態が悪いながらも、設計図面一式が保存されている。
- ・工事段階の図面あり。
- ・原寸図、機械設備の見積書も保存されている。



契約書

昭和四年計画
大船軒新築日誌
起工 竣工

古写真資料

①資料の概要

- ・ガラス乾板とネガフィルム
- ・アルバム 6冊
- ・紙焼き古写真（撮影年代不明）

②資料の特徴

- ・最も古い写真は明治 30 年代、大船軒創業当時の大船駅や「鎌倉ハム富岡商会」の工場全景写真などで、昭和 6 年の新社屋完成時に建物や工場内の最新設備を撮った貴重なガラス乾板写真も含まれる。
- ・アルバムやネガに多数収められている掛け紙等の写真は、明治から大正、昭和の駅弁や観光の文化史として興味深い。

弁当掛け紙

①資料の概要

- ・ファイル 9 冊
- ・スクラップブック
- ・百周年うちわ

②資料の特徴

- ・「サンドウィッチ」「鯨の押寿司」をはじめ、様々な種類の駅弁の掛け紙が保存されている。
- ・注文弁当も受注していたことがわかる。（発注元やイベント名が入った掛け紙がある）

大船軒古写真資料



事務室より調整室・調理室へ



新社屋外観



蒸気機関室



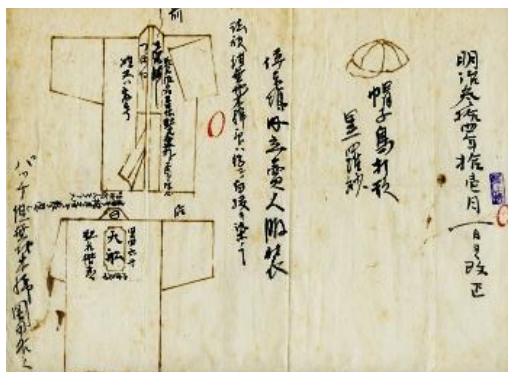
玄関



調理室



ハム商標登録



停車場内立売人服装規定
明治 31 年 (1898 年) 11 月 1 日改正



富岡橋竣工 昭和 8 年 (1933 年) 11 月 横浜 旧赤橋 (アーチ式) を譲り受ける。
昭和 54 年、上流の大船駅近くの新富岡橋架橋に際し廃止。(富岡周吉郎記)

大船軒会社設立関係及び鉄道許認可

資料の特徴

① 昭和 6 年 (1931 年) 3 月 25 日「株式会社大船軒創立書類」の他、電話設置、電力使用、商標登録、駅弁販売の申請、立売人名簿等の一次資料が大量に寄贈されている。

② 昭和初期からの会社の収支や各売店、弁当ごとの売上の推移がわかる資料も含まれる。

③ 新聞の切り抜きやスクラップブックなどの資料も多い。また、報道に対する社内の記録など、事実関係の裏付け資料も残されている。



新社屋設立 (昭和 6 年 4 月 1 日) 前後
大船軒の弁当評価
東京日々新聞
昭和 5 年 10 月 8 日



「美味で評判の大船軒の弁当」中外商業新聞昭和 6 年 4 月 30 日

富岡家土地関係資料

資料の概要

① 借地證書 大正 11 ~ 15 年
台 新富岡関係 50 件

② 貸地台帳 大正 13 ~ 昭和 36 年
取扱者 山田 交進会ほか 85 件

③ 貸地台帳 副 (山田用) 田園富岡
④ 貸地台帳 副 (山田用) 田園富岡

昭和 11 ~ 36 年 石井ほか 22 件



貸地台帳 田園富岡



大船軒資料展示 (中央図書館 1 階・3 階ロビーにて) 令和 6 年 (2024 年) 12 月 ~ 令和 7 年 1 月
「ファンタスティックライブラリー」参加企画展示

インタビュー（むかし語り）⑩

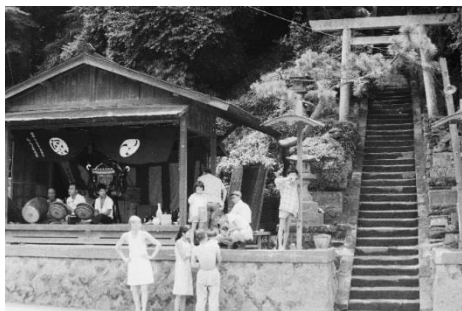
鎌倉流御詠歌を守って

お話し 荒井久二子さん

山ノ内、建長寺門前にある上町（かみちよう）に住んで 70 年近くになります。今の上皇陛下がご成婚された年に、こちらに来ました。今年 92 歳です。

私が北鎌倉へお嫁に来た頃（昭和 34 年）は、女の人とはみんな和服姿でゾロゾロ歩いていました。作業の時は割烹着を来たりして。私は和服と洋服の両方でした。でもほとんど着物を着せられました。和服の普段着は「銘仙」の生地でしたが、丈夫で着やすかった。今、銘仙の生地で作る洋服を作ると「素敵」って言われますね。

世の中変わったもんだってということなのよ。もちろん今もほとんど変わるに決まってるんだけど。今はリュックサックを背負ってスタスタと北鎌倉の道を歩いている。歩く人たちの姿が一変しちゃいました。



八雲神社例大祭 上町第六天にて

上町は街道沿いに小さくがっちりまとまっている感じがしました。古い家では、馬立さん、浅見さん、高梨さん、小原さん、荒井さん、西川さんほか、今も続き、「死んだら、町内会のみんな、延寿堂のお墓（亀ヶ谷坂）に行くから、寂しくないよ」などと言っていました。

お嫁に来たときに、このお婆あちゃんはいしっかりしてたから、最初に「私はお姑さんの模範になるから、あなたはお嫁さんの模範になりなさい」って言われました。そして私に紺の着物でモンペを作ってくれて、「これを着て、庭の草取りをしなさい。そんなスカートでやつてればね、気兼ねばっかりして、氣遣って仕事にはならないから」って。今もそれを取ってあります。捨てられないです。

○北鎌倉への道 — 花柳先生に日本舞踊を—

郷里は、富山県です。先祖は富山駅の前で「千代館」という旅館をやっていました。そのあたりの地名は、千谷（せんたに）と言ったそうです。その旅館には天皇家が、立山の山を登るのに、お休みになり、祖父が山の案内役を務め、ご一緒に回っていたそうです。お礼の品もいただいたそうです。

父は富山で次男坊だったから、東京に出て、さらに横浜、戸塚へ来たので、私は戸塚小学校の卒業生です。父はモダンな人で、芸事がすき

だったみたい。私の姉は、美人で、タップダンスを踊る女優でした。有楽座の専属で「古川ロツパ一座」に入って活躍していて、ロツパさんの相手役花柳小菊さんの代わりをつとめたりしていました。ロツパさんが大阪の梅田の舞台に出る時は、姉が相手役でした。東京の舞台で、小学生の私もボックス席で見えました。いろんな経験をして、恵まれていました。

高校生の頃、日本舞踊を習っていて、北鎌倉の「花柳孝輔」先生のところへ通っていました。瓜ヶ谷戸の奥の山の上にお家がありました。その頃お稽古の帰り、横須賀線北鎌倉駅で電車を待っているとその辺りから、お琴とお三味線の音が聴こえるのよ。で、「ああいいなあ、このへんのところでお琴やお三味線が聴けていい



なあ、このへんに住んだらどんなにいいんだろう、それで「この細道はいいなあ」なんてね。そうしたら自分はその細道を使ってこの家に来ちゃったの。

お見合いだね。そう、北鎌倉駅から向こう

へ行く。自分の家へ帰る、あの道、ああ素敵だなあ。もっと細かったんです。ああいいなあ

この道は、ずうっと一人でトボトボ歩くのみたいなあなんて思いながらいたら、そこへ来ちゃった。(笑) 駅はできてたけどね。その当時は屋根もなかった。もう何もないの。それで寂しいくらいの北鎌倉が怖かったんだけど、お三味線がポツンポツン、お琴がピンピンって鳴ってるのを聴くと……。



北鎌倉駅



小町通りに芸者さんの置屋があつて、その人たちが全部花柳先生のところへ来てました。私は学生だったから、お姉さんに、芸者さんたちのことをお姉さんっていうの、可愛がられて一緒に踊ったり、発表会もやつたり。その中に、宝珠庵のお嬢さんがお稽古に来てました。彼女の発表会っていうとお坊さん家族揃って来るのよ。で私も、母とかみんなが来てくれて、一緒に会場へ行ったりさ。長谷の旅館や第一小学

校の前の中央公民館でも発表会やりましたよ。その頃、将来は日本舞踊の先生になろうと思っていました。こちらで御詠歌を50年もやってきたというのは、そういうご縁があったんですね、きつと。

○鎌倉流御詠歌

それまでの御詠歌には、譜面が無く、符号だけでした。これが古典です。耳と身体で覚えるので、こちらに来ると音程が少し変わって来ます。そこで報国寺の義道和尚と奥様の久子先生が関西へ泊まり込みで行って学んで、久子先生が譜面に起こしたの。歌詞は義道和尚でした。それで「鎌倉流御詠歌」と言います。お坊様や男性は、低い強い声で声明(しょうみょう)を唱えます。女の人の御詠歌は、五、七、五、七、七の短歌です。

私は御姑さんに厳しく教わっていたから、熱心に参加しました、70年近く。

結婚してすぐ、おばあちゃん(お姑さん)にお風呂で特訓を受けたの。おばあちゃんが、「はい、お風呂沸いたから入るわよ。あ、あんたも入りなさい」お風呂の縁に、こうやって二人並ぶのよ。それで、縁で、「きーみょーうちょうらーい」(実演) ってね、それをね、ペンペンペンってやれっというの、手で。お風呂で汗びっしりかくの。それを毎晩ね、毎晩。「は

い、お風呂入るわよ！」私はお風呂入るのがやだなあと思った、でもね、そうやって、おばあちゃんは私を教えたの。私は従順だったの。なんかお姑さまっていうのは一つ上だと思ってるから、同じになんか入れないよ。そういう時代だったから。だけでも、来い来い来い来いって言われて、もう汗びっしりかいて。あのおばあちゃんは、やつぱりこのへんでもあの世代の指導員だったね。

その後、報国寺の久子先生が引退なさる時、先生のお弟子さんをお引き受けしたの、40人くらいになりました。この部屋で練習しました。でも御詠歌は、栃木、茨城など関東のお寺60数ヶ寺の御詠歌なので、一般人の私は、総監のうなものは請けられない。東京多摩の崇禅寺さんが請けて下さった。御詠歌は上手で、いろいろ配慮して下さる方でした。

私の世代は、前の世代の御詠歌を全部受け継いだつもりですが、

次々若い世代になると変わっていきます。これまでの会は解散して、時々練習しています。

「御詠歌の過去帳」というのがあって、参加した方が亡くなると、記録しています。最初





張子の洪鐘（おおがね）を
輿に載せて行列が進む。

は、提灯屋（屋号）の山崎さんのおじいちゃん、立派な字で書いてくれました。あとは、お寺さんに頼んだり、私がいったりしています。

○洪鐘祭に生涯二度も参加できて

円覚寺洪鐘祭り（おおがねまつり）は、60年に一度の行事です。都合できつちり60年目には出来ない年もあります。92歳の私は、うれしいことに、2023年秋の行列に実行委員長の関本さんと一緒に、人力車に乗せていただいて参加できました。スタートは建長寺門前で、みんな御詠歌を歌いました。思い出になります。

先頭は円覚寺の管長さん、次に江之島の宮司さん、その後に私たちでした。恥ずかしかったけど、みんなが握手してくれたりして。（笑）

鎌倉歴史文化交流館でも洪鐘祭の展示をしていました。【梵鐘は正安3年（1301年）鎌倉幕府執権北條貞時を大旦那として鑄造。国宝】

お話し 荒井久二子様

参照…『おおがね祭と先人の足跡』
小泉秀夫



写真記録集『古都鎌倉へのまなざし』

1950-1985

時を見つめた写真家たち

255頁 定価3000円

市内図書館、市内書店で販売中



【後記】

資料室便り第10号をお届けします。一年に一度の「資料室だより」になりましたが、皆様方から貴重な資料をお預かりし、それをわかりやすくご紹介することを務めと考えております。災害や戦争を見聞きすることの多いこの頃ですが、過去の事実を次の世代に語り継いでいくことの大切さがニュースなどでもよく取り上げられています。そのことが、次の悲劇を小さくするために役立つのであれば、その様な歴史の検証を続けていきたいと思えます。図書館編集の写真集『古都鎌倉へのまなざし』は、大船フラワーセンターでも関連写真を展示していただき、好評発売中です。みなさま方のご協力に心より感謝申し上げます。

「近代史資料室だより」第10号

発行 鎌倉市中央図書館近代史資料担当

令和7年4月18日